

まなびの輪 ～大洗町との協働～

教育・研究

ボランティア

課外活動

地域交流

国際交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 3年 野中 萌

連携先

大洗町役場 まちづくり推進課
大洗町立大洗小学校
大洗町立第一中学校

顧問教員

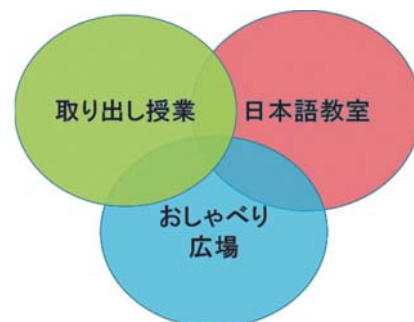
横溝 環 (人文学部・准教授)

参加者

阿部 梓 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
井上 美里 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
上野奈緒子 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
軽部 蓮 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
川本 早紀 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
藤井 駿丞 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
横田 千尋 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
吉岡 杏 (人文学部人文コミュニケーション学科 4年)
野中 萌 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)
木下絵美梨 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)
鈴木 美生 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

東谷 藍 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)
飯塚子都香 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
井口 葵 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
入江 咲紀 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
海老原千祐 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
村上柚香里 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
森井 美桜 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
渡邊 駿平 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
綿引 千晴 (人文学部人文コミュニケーション学科 2年)
倉持 ゆり (人文学部人文コミュニケーション学科 1年)
仲川 千尋 (人文学部人文コミュニケーション学科 1年)

プロジェクトの概要



本プロジェクトは、大洗町役場・ボランティアと連携し、大洗町在住の外国人の日本語コミュニケーション能力の向上及び、多文化共生のまちづくりの推進を目的とする。今年度は、昨年度の反省を生かし、①活動の引継ぎシステムの構築による「活動の継続」、②中学校での取り出し授業支援を新たに開始することによる「活動の発展」を目標とし活動を行った。前者は活動の定着、後者は小学校と中学校をつなげることを目的としている。具体的な活動内容は、①大洗町在住外国人が日本語を学習できる「日本語教室」、②大洗町立大洗小学校・大洗町立第一中学校にて日本語指導サポーターとして参加する「取り出し授業」、③日本人と外国人が気軽に交流できる場として設ける「おしゃべり広場」の3つの柱から成る。これらを通じ、外国人の言語能力の向上並びに町民の交流・繋がり拡大が見込まれ、外国人の力が地域で生かされることを目指す。

プロジェクトの成果報告

本プロジェクトでは、以下の3つを柱として活動した。

(1) 日本語教室

日本語教室とは、大洗町在住外国人のニーズを受け、昨年度から開設・実施している日本語学習の場である。原則として、第2・4水曜日の18:30~20:00に大洗町役場の会議室で開催している。

日本語教室を定期的かつ継続的に開催することにより、本活動は大洗町在住外国人の間でいつでも安心して日本語が学べる場として浸透・定着しつつある。その結果、新たな日本語学習者やボランティアも増えている。

さらに、大洗町在住の日本人にも共に主体となって活動してもらえよう、日本語ボランティア養成講座を開講した。



日本語教室の様子

(2) 取り出し授業

取り出し授業とは、日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童・生徒に対して、通常の授業とは別教室で教科指導を行うことである。成果として以下の3点が挙げられる。第一に、昨年度からの活動を継続したことで、大洗小学校の児童との関係が深められた。私たちの参加により、一人ひとりの児童が密度の高い学習をすることが可能になった。第二に、第一中学校のニーズに応じて、今年度からサポートを開始した点が挙げられる。これによって、より多くの児童・生徒をサポートできるようになったことや、隣接しているがこれまで交流の少なかった小学校と中学校が連携するようになった。第三に、まなびの輪のメンバーが学校行事(保護者会、運動会、学習発表会等)に参加することで、地域住民、特に外国人児童の保護者とのつながりを持つことができた。



保護者会の様子

(3) おしゃべり広場

おしゃべり広場とは、大洗町に住む外国人やボランティアとイベントを通して交流を深める活動である。今年度は、10月23日に料理教室、1月22日にお正月遊び体験教室を実施した。各回約40名、様々な年齢層及び国籍の方々に参加してもらえた。

料理教室では、食と舞踊を通しての異文化交流を目的とし、出身国に関係なく、インドネシア、フィリピン、ペルー、日本の料理を作って食べた。また、インドネシア、フィリピンのダンスを参加者全員で踊り、交流を深めた。



料理教室の様子

お正月遊び体験教室では、お正月遊びを通しての異文化交流を目的とし、日本の遊びである、かるたとすごろくを行った。インドネシアのお正月についても紹介してもらい、参

加者全員でインドネシアのお正月のダンスを踊った。



お正月遊び体験教室の様子

おしゃべり広場を開催することにより、私たちの活動を大洗町在住の人々に知ってもらうことができ、日本語教室に興味を持ってもらうきっかけとなった。

(4) その他の活動

メインの3つの活動の他に、大洗町の行事である盆踊りの夕べ・八朔祭のお手伝いをした。



盆踊りの夕べのお手伝いの様子

また、日本語教室で学ぶ日本語を用い、学習者とボランティアの枠を越えて学びを深め交流できる場としてクリスマスパーティーを開催した。



クリスマスパーティーの様子

日本語教室に参加しているインドネシアの方が通っている教会の誕生祭に招待されることもあった。普段は私たちが外国人を迎え入れる立場だが、この時は反対に、外国人のコミュニティに私たちが迎え入れてもらった。これまでも同様に、教会の収穫祭やクリスマスパーティーに招待してもらい、親睦を深めてきたが、これらにより、外国人に安心して日本語教室やおしゃべり広場などの活動に参加してもらえるようになった。



教会の誕生祭に参加した様子

(5) 全体の成果と課題

第一に、全学年によるメンバー構成にしたことで、常に経験者がいる状態になり活動をスムーズに引き継ぐことができた。

第二に、まなびの輪の活動が、大洗町在住の外国人、日本語指導ボランティア、大洗町役場の方々、私たちの誰にとってもあるのが

当たり前の場所になってきた。

日本語教室は、大洗町在住の外国人の要望から生まれ、大洗町役場や小学校といった公的機関の支援を受けて確立した。そして現在は、これらの機関と協働しながら活動が継続している。継続することで、「当たり前」「日常」となる。私たちは「日常」を第一に考えている。しかし「イベント」を軽視しているわけではない。皆でゲームやダンス、料理をすることによって親睦が深まり、さらに、それは日本語を勉強する意欲につながってくると考えられる。このように、「イベント」が「日常」を彩り、継続する力になっていく。



今後の課題として、日本語教室参加者のデータベースの整理・活用、地域在住の日本語指導ボランティアを増やすこと、日本語教室に来る小学生の教科指導のための教材開発、そして更なるニーズ調査が挙げられる。